

ロシア正教会の主教品、神品、修道者、そして諸ハリストティアニンへ
モスクワ及び全ルーシの総主教キリールよりの降誕祭に際しての書簡

神はその獨生の子を世に遣わして、
我等をして彼に由りて生命を得しむ、
これを以て神の我等に於ける愛は顕れたり。

(イオアン第一公書 4 章 9 節)

尊貴なる諸主教品、尊敬せらるる諸神品、
凡そ誠実なる修道士及び修道女、親愛なる兄弟姉妹！

肉体を藉りたる神の子における喜びに満たされた心の底から、我等の救世主イイス・ハリストスの光明にして生命を賜える降誕祭の御祝いを申し上げます。

「いと高きには光荣神に帰し、地には平安降り、人には恵臨めり(ルカ福音 2 章 14 節)」。年を重ねつつ言葉では表しきれない救贖者の我々への寛仁を称えながら、我々は、かつて天使から「大いなる喜び、万民に及ぼんとする者」の福音を聞いたワィフレエムの牧者達の様に、属神の目を以てメッシヤを見る為に急いでいます。このメッシヤの来臨は、光荣なる諸預言者が予め伝え、多くの男性と女性とが心待ちにしていたものでした。

そして、預言者アッゲイ (ハガイ) が伝えたとおおり、「万国民に待ち望まれる者 (アッゲイ書 2 章 7 節)」は、「己を虚しくして、僕の貌 (かたち) を受け、人と同じき者」となられたのです (フリッピ書 2 章 7 節)。全世界に号令する者が自らの為に選んだのは、皇帝の宮殿ではなく、この世の権力者の住居でもなく、富豪や著名人の豪華な家でもありませんでした。旅館にすら彼の為の場所は見つかりませんでした。神の子は、家畜の為の洞穴で生まれ、その揺りかごとなるのは動物達の為の飼葉桶であります。

神性の富をその内に輝かせた洞が何か他の物よりも賤しく、またその産着が何か他の物よりも卑しいということがあるのでしょうか。降誕祭イパコイに歌われるこの至極の貧窮を私達の救いの機密の為に選んだことで、ハリストスはこの世でとても重要視されている価値観 — 例えば、権力、財産、栄光、高貴な家柄や社会的ステータス — を意図的に退けています。彼が私達に示している生活上の法はこれらとは異なったものです。すなわちこの法は、傲慢と悪意とに打ち克つ謙遜と愛の法なのです。この法によって、神の恩寵と合わさった人間の弱さは、この世で権力と権勢を誇る者達が対抗する事の出

来ない力となるのです。神の力は自らを、地上的な偉大さや世俗的な安逸の内にはなく、心の素朴さと謙遜の内こそ顕わしたのです。

「主は、神と隣人への愛に満ち満ちた心を探している。これこそが彼が鎮座するのを愛するところの玉座である…『子よ、私にあなたの心を渡しなさい。』主はおっしゃる。『他の全ての物は私自身があなたに与えよう』。何故ならば、人の心は神の国を宿すに足るのだから（ハリストティアニンの生活の目的についての講話）」と克肖なるサーロフのセラフィムは書きました。主は、乞食や浮浪者を忌むことなく、財産の少ない人や社会的に評価の低い仕事についている人を蔑視することなく、まして身体に障害のある人や重い病に侵されている人を顧みないなどということはありません。これらの事自体は、人を神に近付けることもありませんし、また神から遠ざけることもありません。ですからこそこれらの事は、人を気落ちさせたり或いは破滅的な落胆の理由となったりはしえないのです。救主は私達自身こそを探し求めておられるのです。「我が子よ。我が娘よ。あなたの心を私に差し出しなさい」と彼は呼びかけておられます（箴言 23 章 26 節）。

降誕の奇異なる祭日は、私達の「生命を有ち、かつ豊かにこれを有つため」に来た（イオアン福音 10 章 10 節）ハリストスに毅然として従う事の重要性を再確認させてくれます。彼こそが唯一正しい道であり、変わる事無い真実であり、真の生命なのです（イオアン福音 14 章 6 節）。願わくは避けがたい種々の困難が私達を脅す事のありません様に。願わくは私達の人生に降りかかる種々の試練が私達の内のたった一人をも打ち砕く事のありません様に。何故ならば、神が我等と偕におられるからです。神は我等と偕にす、そして私達の生活から恐怖が消え去ります。神は我等と偕にす、そして私達は精神的安息と喜びとを手にしめます。神は我等と偕にす、そして私達は彼への強い希望を抱いて自らの地上の旅路を続けるのです。

ハリストスに従う際、人はこの世的な力に逆らって進んでいきます。この人は、目の前に現れる誘惑に服従する事なく、その進む道に立ちはだかる罪の障害を打ち砕きます。実際のところ、罪こそが私達を神から遠ざけ、私達の生活を本質的に哀しいものとするのです。罪こそが神の愛の光を遮って私達を様々な惨禍に陥れ、他人に対して私達の心を頑ななものにしてしまうのです。教会を通じて私達に与えられる聖神^oの恩寵によってのみ罪は克服されます。私達が受け取った神の力は、私達の内的世界を変容させ、主の御旨に沿って外的世界を変化させるのを助けます。だからこそ何らかの形で教会の一

致から零れ落ちた人々は、まるで干からびてゆく木の様に、真に善なる成果をあげる能力を失ってしまうのです。

今日私は、ウクライナの住民に向けて特に言葉をお伝えしたい。ウクライナの地で勃発した兄弟殺しの敵対に、心の内に敵意の種を撒いて教会の信徒達を分断させることを許してはなりません。真実のハリスティアニンは、近くの人々も又遠くの人々もいずれも憎むことはできないのです。「爾等言えるあるを聞けり、爾の隣を愛し、爾の敵を憎めと。然れども我爾等に語ぐ、爾等の敵を愛し、…天に在す爾等の父の子とならん為なり、蓋し彼はその日を悪しき者と善き者の上に照ら（マトフェイ福音 5 章 43-45 節）」すと主は彼に耳を傾ける人々におっしゃっております。この救世主の言葉を私達皆の生活の導きとなし、他者への悪意と反感とが私達の精神の中にいつ何時も巣食う事が無いようにしましょう。

多民族を内包するロシア正教会のすべての信徒に呼びかけます。ウクライナに於ける敵対の一刻も早い全面的な終結と、戦いによって人々が受けた肉体的な、また精神的な傷の癒しとがもたらさることを篤く祈りましょう。聖堂で、また家で神に誠実にお願ひしましょう。そしてまた、私達の国から遠く離れた地に住み紛争によって苦しむハリスティアニンの為にも祈りましょう。

この光り輝く降誕祭の夜とこれに続く聖なる日々に、自らの人を愛する大いなる心によって世に来たる事を善く望まれた我等の救世主を讃揚しましょう。聖書にある博士達の様子に、神たる赤子ハリストスに私達の礼物を捧げましょう。黄金の代わりには私達の誠実な愛を、乳香の代わりには熱心な祈りを、没薬の代わりには私達の近しい又離れた人々への善なる心遣いを捧げるのです。

親愛なる兄弟姉妹よ、光明なる降誕祭の御祝いを再度申し上げ、加えて既に明けた新年の御慶びも申し上げます。あなた方に、祈りと共に、大いに天分ある主イイススの尽きることない慈憐と宏恩とがあらんことを願います。アミン。

キリール

モスクワ及び全ルーシの総主教

ハリストスの降誕祭

2015/2016 年

モスクワにて